

世界と日本のアニマルウェルフェア 畜産ビジネスの新展開(3) —養牛産業におけるAW食品ビジネスとイノベーション—

松木 洋一¹

1 日本獣医生命科学大学名誉教授 (Yoichi Matsuki)

連載の趣旨と構成

「世界と日本のアニマルウェルフェア畜産ビジネスの新展開」についての連載は、養鶏産業編、養豚産業編、養牛産業編という分野別に取り上げる企画である。

21世紀になって欧米畜産先進国は、家畜の自由を閉じ込めることで畜産物の生産性と効率性の高度化を進めてきた工場的畜産システムからアニマルウェルフェア畜産への転換という“畜産革命”へ舵を切っている。また、OIE世界家畜福祉基準の完成が間近になって、グローバルな巨大食品企業チェーンがアニマルウェルフェア食品ビジネスを急速に開始しており、アニマルウェルフェア畜産(以降AWと略称を用いる)の進化にとって大きな影響力をもちつつある。

「養鶏産業におけるAW食品ビジネスとイノベーション」については、『畜産の研究』誌で2019年2月号から第1回「世界家畜福祉基準とアニマルウェルフェア食品企業ビジネスの動向」(松木洋一)、3月号の第2回「グローバル食品企業チェーンにおけるAW養鶏ビジネスの展開」(上原まほ)、4月号の第3回「欧米における養鶏飼育システムのAWイノベーション」(奥山海平)、5月号の第4回「世界のAW鶏卵・鶏肉市場の形成と動向」(大木 茂)として取り上げた。

「養豚産業におけるAW食品ビジネスとイノベーション」編を10月号の第5回「EUの養豚福祉政策の改革と市場経済化の進展」(松木洋一)、11月号の第6回「アニマルウェルフェアで成績を上げるヨーロッパの養豚現場からの報告」(山下哲生)、12月号の第7回「日本におけるアニマルウェルフェア豚肉の販売課題—生協・宅配事業者の放牧豚と薄飼い肥育豚を中心に—」(大木 茂)として掲載した。

今回とりあげる養牛産業(酪農および肉牛)編では、粗飼料を基礎としながらも濃厚飼料依存型で家畜の自由を閉じ込めてきた工場的畜産システムが支配的な現状からアニマルウェルフェア畜産システムへの転換の課題に焦点を置き、欧米畜産先進国が進めているAW畜産への転換=いわゆる“畜産革命”に対応する日本の養牛業界と食品産業界および消費者が取り組むべき課題を取り上げることにする。

第8回 「正しい理解でアニマルウェルフェア畜産を実践する—乳肉牛飼育における実践的取り組み—」(2020年6月号掲載)

第9回 「日本とEUの酪農AWフードシステム開発の現状」(7月号掲載予定)

第10回 「主体別アニマルウェルフェア評価基準の比較とフードチェーン開発の進化」(8月号掲載予定)